

【市長との地域懇談会 記録】

開催日時 令和元年5月22日(水)
18:30~19:00

まちづくり協議会区域名 沼木まちづくり協議会

会場 沼木農村環境改善センター
2階 会議室

参加者数 24人



《質問・意見》

上野小学校生（現在の伊勢宮川中学校の3年生）から、赤井山の山頂にある方位盤の文字が一切分からないという話があった。台風21号の被害がたくさんあったこともあり、これを直すにはどうすればいいか農林水産課へ聞いたところ、「台風での被害にする」とのことで、自治会長から文書で申し入れをするよう言われた。今年の2月の後半から3月の初めに市の担当者から、「予算がないため、今年度はできない。何とか来年度ということでご理解願いたい」との返事があった。

ところが、今年の5月5日に行われた上野町自治会の総会で、市から「要望には応えられない」との話があった。翌日担当者から電話があり、私に連絡がされていないことに対し、申し訳ないという言葉があったが、「この件については、上野町にあるものだから上野町が直すべきである」という回答であった。

てっきり伊勢市で対応をしてくれると思っていた。要望を何とか聞き入れてもらいたい。

《回答》【市長】

具体的には明日以降、担当に確認し、対応させていただきたいと思う。

一つ申し訳ないのは、この5~7年にかけて、市の予算を圧縮しつつある。なぜかというと、2年前の台風21号の浸水被害が1,800戸あって、これを何とか浸水被害にならないようにするために、15~20年かけて、もう一度側溝から、河川の護岸とやり直していかなければならない計画が急に出てきたので、その辺で自治会の要望が通りづらくなっているのは事実である。できるだけ優先順位を付けながら地域の要望に応えられるよう、努力していきたい。

《質問・意見》

2日前の大雨の日、神菌の通学路について、子どもたちが心配で朝から見に行った。今まで溢れている量よりもはるかに溢れて、通学路を越えた跡がある。年々だんだん越えるようになっており、非常に心配しているところである。

特に山に降る量はすごく増えてきており、土砂災害等々も心配であるが、子どもたちを安全に学校へ行かせたいという気持ちがある。

今度、神菌工業団地が来るにあたり、市道をつけてもらうが、計画通り安心・安全に道がつけられるように、また、併せて地域でそのような所がないか、他の自治会からも、そういう要望があった時にはぜひ聞き入れていただきたい。

《回答》【市長】

神菌の防災道路の計画は、何とか来年度中には完成できるような形で進めていきたいと思っている。これも地域の皆さんのご協力なくしてはできないので、よろしく願いしたい。

急傾斜地は、ハザードマップを確認いただき、最近では避難所に逃げられないケースも多いので、その時にはハザードマップに色が塗っていない家など、横の家にも逃げることも考えて欲しい。普段から仲良くしておいて、いざとなったらここへ逃げるといった地域の避難計画をつくっているところもあるので、ぜひご協力をお願いしたい。

《質問・意見》

この地区は、長期的な見通しが大事だと思う。人口推計によると、20年後になると、南勢地区は4～5割、この辺りも4割ぐらい減ってしまうと思う。これから若い人がここに住むようになるかどうか。

将来、10年、20年、30年の計画を市でも立てていただく必要があるし、住民もそれに乗っかるだけではなくて、意識的に何をすべきか。それは、拠点づくりだと思う。沼木地区には拠点が無い。支所はあるが、旧沼中の利用とか、住民が積極的に動いていく、そういうことをしないとインフラがなくなってしまって、ここに住む魅力、若い世代が入ってこない状態になる。

やはり、20年、30年後のことを考えて、インフラを若い世代に残していくことを考えなければならない。これについて、市長の見解と、我々がどうすべきかを教えてほしい。

《回答》【市長】

将来20年、30年経って、同じ公共サービスが継続できるかは、それは難しい話だと思っている。最近のAIやICTの活用によって、随分と負担が減る可能性もあるのではないかと知っている。

一方、拠点づくりについてどうしていくかについては、まずは地域力があってこそで、行政が先行して何か箱をつくって、ここで何かをやってくださいというのは順番が逆だと思っている。

まずは、沼木の皆さんがやっていただいている活動を活発化して集約していくことによって、行政が後押ししていくことが大事だと思っている。行政が主導よりも、住民の皆さんと協働しながらつくり上げていくことが多分大事になろうかと思っている。

ぜひまちづくり協議会の中でもご意見をいただきながら、我々も一緒に土俵に乗ればありがたいと思っている。

《質問・意見》

4月11日に「沼木地域に存在する市施設の利活用に関する要望書」を市長へ提出したところ、丁寧な取り扱いをしていただき、ありがとうございます。その中身の問題として、まち協の備品が増えてきているので、幼稚園跡の所で早速対応をいただき、備品を入れさせてもらっていること、ありがとうございます。

もう一つは先の人がおっしゃっていただいたとおり、拠点づくりの部分になるところであるが、まち協としては2つ目のところが十分に考えていただきたいところであるので、今の話と併せて十分にどちらも検討していかなければならないところであるし、先の人はおっしゃっていなかったが、地域住民のそれなりの負担を持ってもらうことも当然ではないかという意見もおっしゃっていただいているようなことなので、そのことも併せて検討させてもらうので、よろしく願いしたい。

《質問・意見》

林道が市道になっていて、下村区や墓の所まで市道で、菖蒲区は竜ヶ峠の手前のところまで、雨が降るとすごく土砂が流れてくる。区長から市に申し込むと自治会長さんを通さないといけないと言われる。年に2～3回、維持課の人に市道の整備をしてもらいたい。年に1回は下村区で出会いをするが、その他雨が降ると石が流れてくるので、維持課の人が年に2～3回、まわってもらうと助かる。

《回答》【市長】

努力はさせていただきます。

《質問・意見》

現状として上野町では、上野町自治会とまちづくり協議会に参加している役員は同じではない状態である。自治会の中で、まちづくり協議会との関係については、あまり深く関わらないというような話も出てきている。

根本的なまちづくり協議会としての立ち位置、例えば、上野町の例を取ると、上野町は上野町、自治会は自治会、まち協はまち協でやっているという状態になってくると、二重行政になってくる。根本的に「まち協」を設置した目的が、各自治会に話をするよりも、まち協に全部相談することからスタートしたと思うが、その方向がずれかけている気がするので、その点を教えてもらいたい。

《回答》【市長】

将来人口が少なくなり、若い人がだんだん少なくなっていったら、自治会だけで全部まかなうことができるかといったら、できない。その辺を、自治会でやっていくことと、少し大きめの規模で、防災や防犯の活動をみんなで協力し合っていく中で、まちづくり協会でやろうと、それぞれの地域で組織の立ち上げをいただいている形で今に至る。

他のまち協でも、自治会の役員は必ず入るわけでもなくて、自治会の加盟に関わらず、その辺はやわらかく、当然中には仕事をたくさん持っていて、なかなかできない人もいるので、そこは地域によって相談しながら構成員は考えてもらっていいと思う。

《質問・意見》

まちづくり協議会の難しい状況もいくつかあると思う。

私が思うには、要望であるが、まちづくり協議会を発展させていこうと思えば、地域に住んでいる、例えば沼木であれば、沼木に住んでいる市の職員、あるいは既に退職した市の職員がリーダーシップを取ってまとめていかないと、なかなか仕事を持っているとか、高齢になってきたとか、そういう人たちが中心ではなかなかうまくいかないように思うので、職務命令はもちろん出せないが、市長として市の職員が地元のまちづくり協議会で活躍する、リーダーシップを取ってもらえる、そういうものを何とか構築してもらわないといけないのでは、と日々感じている。回答は不要。